

最も有名なみことばの一つです。そして、聖書によって神が伝えている福音、良い知らせの要約であると言えます。その福音の基盤となっているのは神の愛です。今日はこのみことばから福音の中心とその基にある神の愛についてお話しします。

1. 神は世を愛された

「神は愛された」。主語は「神」です。神が主導権を持っています。神が愛されたことから出発しています。まず神が愛してくださったので、私たちは救われるのです。

私たちが努力して救いに達するのではないということです。これはこの世にある宗教とは違います。宗教は、人が経験する苦しみに対して解決の方法を与えようとします。人が自分の内にある苦しみの原因を、自分の努力によって断ち切っていくとしようとするものです。それには限界があるのです。

それに対して聖書は、神が世を愛されたと言っています。神が与えてくださるなら確かなものです。聖書によれば、神は天地万物を造り、人を造っていのちを与えました。この世界を初めから終わりまで続べ治めておられます。全知全能のお方、永遠不変のお方です。ですから、神が人に与えてくださる救いは確かなものなのです。

その神の愛の対象は何でしょうか。「神は世を愛された」。「世」とはどういうことでしょうか。

聖書の最初には、神がこの世界を造り、人を造られたことが書かれています。すべてのものは神によって造られ、すべての人は神によっていのちを与えられたのです。すべて神の作品です。それゆえに、神はこの世界全体を愛し、すべての人を愛しておられます。この世界は、そして私たちは神の愛の対象なのです。

ところが、この世の現実の状態はどうかというならば、愛する対象にはふさわしくないとわざるを得ないでしょう。人の罪が満ちています。人々はまことの神を知らず、神に背を向けています。現代では、絶対的なものが失われ、相対化された個人主義、自己の絶対化、簡単に言えば自己中心が蔓延しているのです。

「世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった」(ヨハネ 1:10) とあるように、自分を造った神を知らず、神に背き、高慢になっている結果、様々な悪が行われます。神が造られたことには目的があるのに、それを知らないから、自分勝手に歩みます。今も「世」は神を知らずにいます。

しかし、驚くべきことに、神はご自身に背く「世」を嫌うどころか愛し、見放すどころか和解しようとするすべての人を招いておられるのです。そして、救いを与えようとしてくださっているのです。

神が愛している「世」には、私たち一人ひとりも含まれています。私たちも神に背き、罪を犯していますが、その私たち一人ひとりを神は愛してくださっているのです。

2. そのひとり子をお与えになったほどに

世を愛された神の愛は、単なる感情ではなく、具体的な行動になって表されました。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」のです。神は私たちが愛してくださるゆえに、ご自分の「ひとり子」を私たちのために与えてくださいました。神の「ひとり子」とはイエス・キリストのことです。

神が「ひとり子をお与えになった」とは、まず、神のひとり子が人になられたことです。神は御父、御子、御霊の三者に区別できますが、本質においては同じひとりの神であって、互いに上下の差異はありません。御子は御父によって創造されたとか生まれたということではなく、御父と全く同じ性質を持った神であり、そして父と子の関係にあるということです。

その神の御子が一人の人となってこの世に来られました。神でありながら同時に人となられました。あらゆる点で限界のない神が、様々な限界のある人となってこの世に来られました。このことに神の愛が表されています。イエスは神としての特権を犠牲にしてこの世に来られました。私たちと同じ一人の人として誕生し、人として生きるあらゆる困難の中に身を置かれました。疲れ、傷つき、苦しむ一人の人になったのです。

どうしてイエスは神としての栄光を捨てて、一人の貧しい人になったのでしょうか。それは私たちが愛しているからです。生きていく中で様々な苦しみがある私たちに伴ってくださるためです。

イエスは生涯を通して神の愛を表されました。3年余りの公生涯の末、イエスは十字架につけられました。ユダヤの指導者たちに妬まれ、彼らの策略によって十字架刑に処せられました。しかし、イエスは御父のみこころに従い、自ら十字架に向かって行かれたのです。それは、私たちの罪を代わりに負って、裁きを受けてくださるためでした。

イザヤ 53 章 5 節。これはイエス・キリストの十字架上での苦しみを描いています。そして、その身代わりの死によって私たちに救いが与えられることが語られていました。

父なる神はひとり子イエス様を私たちの身代わりとして死に渡されました。私たちが愛して救うためにです。それほどまでに、神は私たちが愛してくださっているのです。

3. それは御子を信じる者が

では、神が「そのひとり子をお与えになったほどに」世を愛し、私たちが愛してくださったのは何のためでしょうか。「それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つため」です。ここにイエス・キリストの十字架の死の目的として二つのことが言われています。一つは、信じる者が一人として滅びることがないためです。

神は愛のお方であると同時に、聖なる義なるお方です。神はご自身の義によって人の罪を正しく裁かなければなりません。すべての人は罪を犯しているのです。そのままでは裁かれて滅びることになります。しかし、神はご自身の愛によって人を救わずにはられません。この二つのことを神はイエス・キリストの十字架において両立させたのです。

私たちは皆、自分の罪のゆえに神に裁かれ、滅びなければなりません。しかし、もし罪のない完全な人がいれば、その人が私たちの罪の身代わりになることができます。それがイエス・キリストでした。そのキリストによって私たちは滅びないで済むのです。そのようにキリストの十字架は神の義と愛の合わさるところなのです。

また、ここで言われているもう一つの目的は、永遠のいのちを持つことです。永遠のいのちとは単に長続きするいのちということではありません。イエス・キリストによって救われて、新しいいのちに生きている、生かされているということです。神はそのいのちを私たちに与えるために御子をお与えになりました。主イエスは言われました。「わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます」(ヨハネ 6 : 51) と言われ、ご自分をいのちを与えるパンにたとえました。そのイエス様によっていのちを与えられると、その人は新しいいのちによって生きるようになるのです。

「いのち」そのものは見えないですが、人が活動していることでいのちがあることが分かります。そのように神との生きた交わりを持っていることで、その人が新しいいのちに生かされていることが分かります。神を礼拝し、賛美し、聖書を読み、祈ることが喜びになります。そして聖書が教えていることをよく理解できるようになります。そのような人が永遠のいのちに生きている人です。

また、イエス・キリストは十字架で死なれ、三日目によみがえられました。そして、今も生きておられます。そのキリストをよみがえらせた神の偉大な力が、キリストを信じる者たちの内に働くのです。主イエスは言われました。「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません」(ヨハネ 10 : 28)。イエス・キリストによって新しいいのち、永遠のいのちに生かされるのです。

最後に大事なことをお伝えします。それは、「滅びることなく、永遠のいのちを持つ」ことができるのは、「御子を信じる者」だということです。神の御子であり人となられたイエス・キリストを救い主として信じる者が救いを受け取ることができるのです。イエス・キリストを与えることで表された神の愛は、あなたに対する神の愛です。イエス・キリストを信じ、永遠のいのちに生かされていくことは素晴らしいことです。イエス・キリストを信じるなら、あなたも滅びないで、永遠のいのちに生かされるのです。

ぜひ、イエス・キリストを信じて、神の愛を受け取っていただきたい。イエス・キリストを信じて生きていく決心をしましょう。その決心を神に祈って、言い表しましょう。